

■ 編集後記 ■

「翻訳育成プロジェクト」によるウェブ版『翻訳研究への招待』10号をお届けします。今回は5本の投稿のうち2本が翻訳とテクノロジーの接点をさぐる内容でした。今年初めには立教大学で「翻訳『革命』期における翻訳者養成」というシンポジウムが行われ、日本通訳翻訳学会でもまもなく「テクノロジー研究プロジェクト」が発足する予定など、翻訳とテクノロジーの関係がますます注目を浴びています。

「翻訳研究育成プロジェクト」では年に2、3回、ゲストを招いて講演会を行っていますが、直近の2回はそれぞれ映像翻訳、そして翻訳とグラフィックスの関係を取り上げた講演でした。若者の翻訳に対する姿勢を見ても、もはや文字で書かれた言葉だけの翻訳には飽き足りないようです。モノリンガルの「翻訳の花園」(?)のような日本の状況はそれとして、グローバル化の流れのなかで日本の翻訳がどう変わっていくのか、『翻訳研究への招待』でも注視していきたいと思えます。

翻訳研究は実に多様な側面をもっています。本誌も新しい視点を取り入れ、特集企画などで充実をはかっていきたいと思えます。ご意見・企画などありましたら tanabe@mail.kobe-c.ac.jp までぜひお寄せください。また本プロジェクトの中長期的活動目標として、「翻訳論アンソロジー現代日本編」「翻訳論アンソロジー外国編」「翻訳関連文献集成」があります。これは言語を問いませんので、英日以外の言語を専門とする方も、ぜひ積極的にご参加ください。

次号(11号)は4月末の刊行を予定しています。投稿の締め切りは2月末です。多くの論考をお寄せください。投稿をお待ちしています。

2013年8月28日

『翻訳研究への招待』編集委員会

※『翻訳研究への招待』のサイトの英語版がまもなく完成する予定です。ご活用ください。